

審議会会議録

1	会議の名称	令和5年度第2回富津市子ども・子育て会議
2	開催日時	令和5年11月7日(火) 午後1時30分～午後2時25分
3	開催場所	富津市役所2階 第3委員会室
4	審議等事項	議題 特定教育・保育施設に係る利用定員の変更について (1) 富津保育園 (2) 認定こども園明澄幼稚園
5	出席者名	○出席委員 安藤 沙耶佳、齋藤 みゆき、武内 友子、 渡瀬 栄一、高林 めぐみ、鈴木 秀弘、 君塚 善恵、今井 常夫、茂木 聖信、宗政 朱利、 三浦 貴子 ○事務局 石井健康福祉部長、吉原こども家庭課長、 水島子育て支援係長、三木副主査 小野田保育課長、田内保育課長補佐、 圓川健康づくり課主査、田口学校教育課指導主事
6	公開又は非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部非公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開
7	非公開の理由	
8	傍聴人数	1人(定員5人)
9	所管課	健康福祉部こども家庭課子育て支援係 電話 0439-80-1256
10	会議録(発言の内容)	別紙のとおり

令和5年度第2回富津市子ども・子育て会議 会議録

発言者	発言内容
<p>事務局 (石井健康福祉部長)</p>	<p>皆様、こんにちは。健康福祉部長の石井でございます。</p> <p>会議の開催に先立ちまして、皆様に報告がございます。大変つらく、残念な報告になりますが、去る10月25日に富津市子ども・子育て会議の会長である三木千明様がお逝去されました。三木様におかれましては、令和4年7月から富津市子ども・子育て会議の会長として子育て施策の推進に寄与されました。三木様に謹んで哀悼の意を表し、黙とうをささげたいと存じます。</p> <p>皆様ご起立願います。</p> <p style="text-align: center;">(黙とう)</p> <p>お直りください。</p> <p>ありがとうございました。ご着席ください。</p>
<p>事務局 (三木副主査)</p>	<p>本日は、ご多用のところお集まりいただき誠にありがとうございます。会議の進行を務めさせていただきます、健康福祉部こども家庭課の三木です。よろしくお願いいたします。</p> <p>(配布資料の確認)</p> <p>会議を始める前に、配付資料の確認をさせていただきます。</p> <p>会議資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次第、委員名簿、席次表 ・資料1 特定教育・保育施設の利用定員の変更について ・資料2 第Ⅱ期富津市子ども・子育て支援事業計画（中間年の見直し後）における影響 ・資料3 令和5年度富津市子ども・子育て会議スケジュール（案） ・資料4 事前に出された意見と市の考え方

発言者	発言内容
	<p>(出席状況の報告)</p> <p>ここで、本日の委員の出席状況をご報告いたします。欠員1名を除いた委員14名のうち、出席者は11名であり過半数の出席をいただいております。従って、富津市子ども・子育て会議設置条例第6条第2項の規定により、会議は成立いたします。なお、委員名簿3番中田委員、5番浅倉委員、7番宮原委員におかれましては、欠席のご連絡をいただいております。</p> <p>(議長について)</p> <p>本日の議長でございますが、富津市子ども・子育て会議設置条例第5条第3項の規定により、副会長が会長の職務を代理することとなっておりますので、鈴木副会長が議長となります。</p> <p>(会議の公開)</p> <p>この会議は、富津市情報公開条例第23条の規定により、公開することとなっております。</p> <p>なお、本日の傍聴人は1名でございます。</p> <p>また、会議録作成のため、会議の内容を録音させていただきますので、ご了承ください。</p> <p>続きまして、ご発言の際の注意事項を申し上げます。皆様の前にありますマイクにつきましては、緑色のスイッチを押してからご発言いただきます。ご発言の際は、恐れ入りますが挙手の上、鈴木副会長からの指名後、ご発言いただきますようお願いいたします。</p> <p><次第1 開会></p> <p>ただ今から、令和5年度第2回富津市子ども・子育て会議</p>

発言者	発言内容
<p>議長 (鈴木副会長)</p>	<p>を開会いたします。</p> <p>議事に入る前に、鈴木副会長からご挨拶を頂戴したいと存じます。</p> <p><次第2 副会長挨拶></p> <p>改めまして皆さんこんにちは。</p> <p>諸先輩方を前に本当に僭越^{せんえつ}ではございますが、決まりですので務めさせていただきます。社会福祉法人わこう村和光保育園園長の鈴木秀弘と申します。</p> <p>どうぞよろしく申し上げます。</p> <p>私の娘が1歳3ヶ月、令和4年度生まれですが、令和3年度生まれが130人台で、令和4年度生まれが、富津市内に110人台ぐらいらしいですね。正確な数字は出せませんが、大体20人ずつぐらい減っているということで、今年はどうなるのでしょうかね。もしかしたら100人を切ってしまうみたいな話も出てくるわけで、人が本当にガサッガサッと減っているということが目の当たりになっていて、保育園を経営していても定員の変更については、その都度考えていかなければならない課題になると思っています。今年2月の時点で4万人弱の人口が、大体毎年500人ぐらい減っていますので、来年の2月には3万人台になるかもしれません。富津市が続くかどうかということ自体にも関わってきている状況のような気がしますが、そういう意味で私達が富津市民として、暮らしやすい、居心地が良い富津市をどのように続けていけるのか。そういう課題が、本当にみんなで一緒に考えていかなければならないタイミングがきているのではないかと思います。</p> <p>余談ですが、この3連休で「全国森のようちえん交流フォ</p>

発言者	発言内容
	<p>「ラム」というものが南房総市、千葉県で開催されまして、私、実行委員として参加してきました。その中で、命の仕組みに即した暮らしということで、パーマカルチャーデザイナーの四井真治さんという方に講師に来ていただいて、勉強させていただきましたが、生物と無生物というものに分けると、無生物というものは放っておくと風化されてしまう、拡散してしまうという力が働くそうです。つまり、富津市から人がいなくなってしまうという意味では、無生物化しそうになってしまっているという言い方もできるのではないかと。そのようなことではないと思いますが、放っておくと広がっていつてしまう。そしてなくなってしまう。生物はどういう仕組みかという、集った者たちや要素が有機的に繋がりあって、そこに何か続いていく命の仕組みのようなものができる。動的平衡が働くというものがあるようですが、そういうことへの理解よりも先に、とにかく集めたものを留めるという仕掛けを何かしていかないと、拡散してしまう。そういう危うさがあるというのは、私達の肌感覚の中でやはり感じていなければならないと思っています。私はその話を聞いたときに、富津市民が富津市で暮らしたい、生きていきたいと思える希望はどのように生まれるのかを考えなければならないと思ったときに、やはりそれは市民一人ひとりの幸福感、満足感、充実感、さらに言い方を変えれば、平時含めた居心地の良さなどのほか、私達が市民であるということの手応え感のようなものが必要ではないか。行政と市民の関係は、サービスをする側と受ける側に分かれてしまうことが多いですが、その関係を超えて一緒に作っていくような関わり合いが生まれにくい限り、有機的に繋がり合う、続けていこうという意思は働かないような気がしております。この富津市子ども・子育て会議の意義は、そういうところでいうと量の見込みなどを立て</p>

発言者	発言内容
<p>事務局 (三木副主査)</p>	<p>なければならぬので、数字の話になってしまうのは仕方がないことですが、ここでもしできないとすれば、やはり市民の人たちと会話をする機会をもっと持っていていただきながら、ともに未来を創るような会話が生まれるような機会を作っただけならと思っております。そういう意味では、私は、市民として皆様と一緒に何か作っていきたいという気持ちがありますので、どうかこの場ではなくてもいいので、そういうものが生まれてくることを期待しながら挨拶に代えさせていただきます。</p> <p>不慣れでございまして、行き届かないところがあると思いますが、ご容赦いただきながらお付き合いください。</p> <p>よろしく願いいたします。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>鈴木副会長には引き続き、議事の進行をお願いいたします。</p>
<p>議長 (鈴木副会長)</p>	<p><次第3 会議録署名人の指名></p> <p>それでは、議長を務めさせていただきます。</p> <p>次第3の会議録署名人の指名をさせていただきます。本日の会議録署名人の指名ですが、議長のほか、慣例により委員からお一人、お願いしております。今回は、高林委員にお願いしたいと思います。</p> <p>よろしく願いいたします。</p>
<p>議長 (鈴木副会長)</p>	<p><次第4 議題></p> <p>続きまして、次第4の議題に入ります。</p> <p>「特定教育・保育施設に係る利用定員の変更について」を議題といたしますが、富津保育園と明澄幼稚園に関連性がございまして、一括審議にしたいと思いますが、ご異議ござ</p>

発言者	発言内容
<p>事務局 (田内課長補佐)</p>	<p>いませんか。</p> <p style="text-align: center;">(異議なし)</p> <p>異議なしと認め、一括審議といたします。 事務局の説明を求めます。</p> <p>保育課の田内です。よろしくお願ひします。</p> <p>本議題は、富津保育園及び認定こども園明澄幼稚園につきまして、両法人から利用定員変更の届出がありましたので、その利用定員を定めるに当たり、子ども・子育て支援法第31条第2項の規定により、本会議でご意見を伺うものでございます。資料に沿って、ご説明させていただきます。</p> <p>資料1ページ、「特定教育・保育施設の利用定員の変更について」をご覧ください。</p> <p>はじめに、富津保育園に係る利用定員の変更につきまして、ご説明いたします。</p> <p>中段の表をご覧ください。</p> <p>変更後の定員数は120名で、現定員数と比較して20名の減となっています。年齢ごとの定員数は、0歳が10名で3名減、1歳が15名で5名減、2歳が20名で5名減、3歳が25名で2名減、4歳が25名で3名減、5歳が25名で2名減となっています。変更理由といたしましては、「この数年、定員を満たすことが難しくなっている。その為、保育士の人件費の確保に苦慮している。地域全体の少子化が進み、入所希望児童数が減少していくことが見込まれるため。」であり、令和6年4月1日から変更するというものでございます。</p> <p>3ページをお開きください。</p> <p>こちらの表は、富津保育園及び青堀保育園の入所児童数の推移を記載したものとなっています。</p>

発言者	発言内容
	<p>上段、富津保育園の令和3年度及び4年度の数値、①で囲んでいる部分をご覧ください。</p> <p>両年度におきまして、0歳児の入所児童数が定員数を大きく上回っており、充足率がそれぞれ127%、131%となっています。この理由といたしましては、下段、青堀保育園の令和3年度及び4年度の数値、②で囲んでいる部分になりますが、青堀保育園が法人の方針で、新規入所を受け入れていなかったため、富津保育園での受入れが増加したものと考えられます。令和5年度におきましては、青堀保育園が0歳児の受入れを再開し、通常の状態となったことから、富津保育園が利用定員を減少しても、今後はニーズを下回るものではないと考えられます。また、その他の年齢区分の定員につきましても、現状を踏まえた定員数としているものと考えられます。</p> <p>2ページにお戻りください。</p> <p>次に、認定こども園明澄幼稚園に係る利用定員の変更につきまして、ご説明いたします。</p> <p>中段の表をご覧ください。</p> <p>変更後の定員数は208名で、現定員数と比較して4名の減となっています。年齢ごとの定員数は、1歳が12名で6名増、2歳が16名で2名増、3歳の1号認定が43名で4名増、2号認定が17名で1名増、4歳の1号認定が43名で4名増、5歳の1号認定が43名で21名減となっています。変更理由といたしましては、「園児数の大幅な減少に伴い、クラス編成並びに利用定員の調整を行うため。」であり、令和6年4月1日から変更するというものでございます。</p> <p>4ページをお開きください。</p> <p>こちらの表は、明澄幼稚園の入所児童数の推移を記載したものとなっています。</p>

発言者	発言内容
	<p>明澄幼稚園におきましては、令和5年度から認定こども園へ移行し、3歳未満児の受入れを開始しています。令和5年度は、1歳児及び3歳以上児の区分において、充足率が100%を上回っている状況にありますが、利用定員変更後は、利用定員内に収まるものと考えられます。</p> <p>5ページをご覧ください。</p> <p>次に、「第Ⅱ期富津市子ども・子育て支援事業計画（中間年の見直し後）における影響」について、ご説明いたします。</p> <p>昨年度、本会議におきまして、ご意見等をいただきながら、「第Ⅱ期富津市子ども・子育て支援事業計画の中間年見直し」をさせていただきました。本資料は、今回の利用定員数の変更による見直し後の、第Ⅱ期富津市子ども・子育て支援事業計画への影響等をまとめたものとなります。</p> <p>中段には見直し後の計画数値の表を、下段には今回の利用定員の変更を反映させた数値の表を記載しています。下段の表におきまして、①の量の見込みの数値を②の確保方策の数値が上回ることから、今回の利用定員の変更後も、ニーズは充足される見込みとなっています。</p> <p>また、現計画の数値を、今回の変更後の数値に見直すかにつきましても、確保方策の数値に変動はあるが量の見込みを上回っていること、現計画の計画期間が令和6年度末までであることから、現計画の見直しは行わず、次期計画に反映させるものとします。</p> <p>なお、本件につきましては、千葉県にも確認済みであります。</p> <p>以上で、議題の説明を終わります。</p> <p>続きまして、資料4「事前に出された意見と市の考え方」をご覧ください。</p> <p>こちらには、事前に委員の皆様にご意見を照会させていた</p>

発言者	発言内容
<p>議長 (鈴木副会長)</p> <p>安藤委員</p>	<p>だいたいで、安藤委員からご意見をいただきましたので、その内容と市の考え方を記載しています。</p> <p>ご意見ですが、「変更理由に入所希望児童数が減少していくことが見込まれるとあるが、この状況で令和3年12月14日の会議資料にある富津市市立保育所再配置計画(案)P31の小規模保育事業者募集や飯野保育所の民間移管する計画に変更はないのでしょうか。変更がない場合既存の私立保育園で入所児童の取り合いになる恐れはないのでしょうか。入所児童が減少した場合高砂福祉会のように撤退してしまい通園している方が不便な思いをするのではないかと心配です。」というご意見をいただきました。</p> <p>市の考え方ですが、現時点において、再配置計画に変更はありません。本計画は、保育所再配置の方向性を示すものであり、取組にあたっては、保護者や地区への説明を行いながら進めてまいります。引き続き情勢を注視し、関係者からご意見等をいただきながら、児童・保護者にとって最適な再配置の実現に努めてまいります。</p> <p>以上で、私からの説明を終わります。</p> <p>事務局の説明が終わりました。</p> <p>ご意見、ご質疑等がございましたら、挙手の上、施設名を述べてからお願いいたします。</p> <p>ご質疑等はございますか。</p> <p>回答ありがとうございます。</p> <p>富津保育園についての意見ですが、市の考えは、今のところ再配置計画に変更はありませんとのことですが、私も意見を言ったように、このまま進めると、私立保育園で入所児童の取り合いなどのおそれがないのか、また、高砂福祉</p>

発言者	発言内容
<p>議長 (鈴木副会長)</p>	<p>会のように撤退してしまう業者さんが出てしまうのではないかと思います。保護者や地区への説明を行いながら進めてまいりますとのことで、私個人の意見ですが、できれば地域にある公立保育所をなくさない方がいいと思います。保活するときに、私立保育園派と公立保育園派がいます。できれば選べる方が、住みやすい街ではないのかなと思います。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>ご意見として受け取ってよろしいでしょうか。それに対して事務局から何かお答えすることがあれば。</p>
<p>事務局 (田内課長補佐)</p>	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>計画を立てた年度から早2年が経とうとしているところで、情勢も当初の見込みよりもおそらく早いスピードでの児童数の減少や各地域にばらつきはあるものの、富津地区の児童数も把握している中では、0歳から5歳児までのお子さんの数につきましては、令和4年9月30日現在と令和5年9月30日現在を比較すると富津地区全体で50人減っています。冒頭、議長からお話がありましたが、9月末現在で出生数は63人という状況でございます。やはり、情勢というのは刻一刻と変わっておりますし、回答の方にも書かせていただきましたが、計画は方向性を示すものとして公表させていただいております。その方向に沿った中で、いただいたご意見等を大事にしながら、あくまで利用される方あつての保育施設になりますので、随時、本会議を初め関係者等々にお話しやご相談をさせていただきながら、それをブラッシュアップさせていくというような形を市の方もとっていきたいと思います。ただ、現時点で、あくまで正式な回答として、再配置計画については変更がないという発言をさせていただいて</p>

発言者	発言内容
<p>議長 (鈴木副会長)</p>	<p>いるということでご理解いただければと思います。 ありがとうございます。</p> <p>よろしいですか。</p>
<p>安藤委員</p>	<p>回答ありがとうございます。</p> <p>アイデアですが、今、子供たちの人数が減ってしまっているのは聞いたので、減ってしまっているのなら、保育所と小学校を一緒にするというのは駄目ですかね。</p> <p>よろしくをお願いします。</p>
<p>議長 (鈴木副会長)</p>	<p>事務局は説明をお願いします。</p>
<p>事務局 (田内課長補佐)</p>	<p>アイデアありがとうございます。</p> <p>この場で具体的にかつ正確な返答というのはできませんが、お話しがあったとして、ご意見を賜らせていただきます。</p> <p>ありがとうございます。</p>
<p>議長 (鈴木副会長)</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>お話しの中に公立派と私立派という言葉が出てきたので、きっとあるだろうなと思いながら聞いていましたが、もう少し詳しく見ていくと、公立の中にもたくさん色がありますよね。地域によっても色がありますし私立保育園でも色があります。それは、多様性として現れているということがとても大事で、どちらが良い悪いとかそういうことではなくて、やはり一人ひとりの子育てのプランとか希望とかそういうものもありますから、そういうことに多様性をもって応えられ</p>

発言者	発言内容
<p>議長 (鈴木副会長)</p>	<p>るような富津市全体の計画みたいなものがあればいいと思っていますので、小学校との連携も含めて、そういうことが盛り込まれていくといいなと感じております。</p> <p>ただ問題は、ゆっくり待ってられない状況ということで、改めてヒヤヒヤする感じがしますので、どうかよろしく願いします。他にございますか。</p> <p>ないようでしたら、次第5「その他」に移らせていただきます。</p> <p><次第5 その他></p> <p>委員の皆様から何かありますか。</p> <p>本日の内容で聞き漏らしたこと、確認したいことでも構いませんので、ありましたらお願いします。</p>
<p>宗政委員</p>	<p>清和短期大学の宗政です。お世話になっております。</p> <p>今ですね、ちょうど2年生が保育士養成課程の卒業を控えていて、就職活動の方が具体的に進んでおりまして、既に内定をいただいている保育園や幼稚園がたくさんあります。就活指導をしていて気になるのが、富津から通っている学生たちの希望する就職先が上り方面になっている現状で、なかなか地元で就職というのが厳しい。その理由を尋ねると、富津はいいところで、できたら富津でと思うのだけれども、やはり労働条件など、そういうところで、なかなかというところがあります。一方で、色々な事情を抱えている学生が本当に多くて、例えば家族のことを抱えているヤングケアラーの学生など、出たいけど出られないというような事情もございませぬ。以前、保育の雇用の確保という議題があったとき、富津の学生が富津で安心して就職できるような、そういうところも話し合っただけであればというようなお話をさせていただ</p>

発言者	発言内容
議長 (鈴木副会長)	<p>いたのですが、その辺は、具体的にどういう場でどこが主導して話し合っていくことなのかということをお聞きしたいと思います。</p> <p>よろしくをお願いします。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>事務局よろしくお願いいたします。</p>
今井委員	<p>関連してよろしいですか。</p>
議長 (鈴木副会長)	<p>どうぞ。</p> <p>今井委員。</p>
今井委員	<p>みなと幼稚園園長の今井です。</p> <p>今の宗政委員のご意見、もったもだと思って、私も一幼稚園の園長として、やはり人材の確保というのが大きな課題になっています。その中で、やはり奨学金制度というのは、富津市により良い保育士を確保するには、大変貴重なことだと思います。奨学金制度というのは教育委員会で所掌していると思いますが、今の奨学金制度についても利用している方がいないようなところもある。ですから、健康福祉部と教育部で調整していただいて、奨学金の中に保育士を確保するような制度を入れ込みながら、ぜひそういう制度を作っていただきたい。一園長としての要望ということで聞いていただければと思います。</p>
議長 (鈴木副会長)	<p>いかがでしょうか。</p>

発言者	発言内容
<p>事務局 (小野田課長)</p>	<p>千葉県制度として、県内で働くことを条件とした奨学金があることは、承知しています。その中で、富津市は予算の面もありますが、お金の競争になることが懸念される場所なので、まず公立を比較すると、保育士の業務として木更津市、君津市、袖ヶ浦市は保育業務のICT化が導入されている中で、富津市は使っていないということもあるため、まずは、他と同じ保育業務体制をとれるように、来年度、ICT化を進めます。</p> <p>また、今年度の11月からですが、使用済み紙おむつの持ち帰りを廃止して、保育士の業務負担の軽減を図っております。先程、宗政委員から富津の労働条件ということがありましたが、富津市の公立保育所の労働条件で改善すべき部分があるかもしれないということを感じておりました。そのため、できるだけ負担を軽減して人材を確保したいと考え、できることから取り組んでいるところです。</p> <p>奨学金については、今井委員からもありましたが、教育委員会の奨学金は私も1年携わりましたが、保育士に限ったものではないですが、借りる人はあまりいません。そこも金額を上げればいいのか、返さないやり方がいいのか、その辺も色々ありますので、そこについては、今後連携しながら進めていけたらいいと思っております。</p> <p>まず、保育士の労働環境、人が少ないことで余計に負担が増えるという悪循環になっていますので、できるだけ負担を減らして就職しやすい環境整備に努めたいと考えております。</p> <p>また、私立も人材の確保が難しいというところで、色々、国等の補助制度等がありまして、昨年、少しお話させていただきましたが、宿舎の借り上げや民間にもICT化に対し補助金があるため、そういうところを取り入れて、民間を支援</p>

発言者	発言内容
議長 (鈴木副会長)	<p>していきたいと思っております。公立は、そのような国等の補助金が出ないので、また違うところで環境整備を図って、これからも確保に努めていきたいと考えております。</p> <p>以上です。</p> <p>宗政委員の意見の中にこういう話をここ以外にどこかする場があるのかという質問が含まれておりましたので、それについてもお答えください。</p>
事務局 (小野田課長)	<p>失礼いたしました。</p> <p>考える場というのは特にございませんので、よろしければ、この会議で皆さんからご意見、ご提案をいただけたらと思います。</p>
議長 (鈴木副会長)	<p>そのようなことですが、いかがですか。</p> <p>印象としてはここで発言してもそれが実行に移るかどうかという手応えは正直感じないというところがあって、例えばその公立のICT化も含めて、業務軽減は現場との応答があるのかということも気になります。そういう意味で、やはり保育をサービス化すればいいという問題ではないような気がしていて、その辺をもっと現場の人たち、私達と一緒に市が練っていくような時間が私は必要だと思っておりますが、そういう時間を持つという考えは、今のところはないということですか。</p>
事務局 (小野田課長)	<p>公立については、所長会議や総括保育士会議という場があって、話し合いながら進めているところです。事務方だけで、こちらの考えだけで進めていくということはしておりません。私立を含めてということになれば、各園長とも相談させ</p>

発言者	発言内容
議長 (鈴木副会長)	<p>ていただいて、そういう場を作っていくのも一つかなと思います。</p> <p>以上です。</p> <p>宗政委員いかがですか。</p>
宗政委員	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>一つお聞きしますけれども、奨学金制度に携わられたということで、奨学金制度の詳細というのはご存知でしょうか。保育士養成の奨学金制度の詳細です。</p>
事務局 (小野田課長)	<p>教育委員会のときの奨学金制度は月額2万円で卒業までお貸しして、その後、就職してから返済ということですが、保育士について、奨学金の枠は、特にそういう絞ったものではないです。</p>
宗政委員	<p>以前、この会議で少しお話しさせていただきましたが、保育士は、千葉県から奨学金5万円という奨学制度もございます。それは、資格を取って5年間の間、千葉県内の保育所で保育士として勤務した場合、返還が免除されるという内容です。その奨学金は5万円上限で、その中に給付型も含まれます。つまり、家庭の事情で、給付型を3万円受給できるご家庭の場合は、上限が5万円なので、借りられるのはプラス2万円です。そこで木更津市では、優秀な保育士を確保するために市独自の奨学金制度を千葉県の奨学金と併用可能という形で3万円、昨年度より実施しております。それに対して学生が、借入れをする木更津市で就職しなければならないので、千葉県内という枠を狭めることにはなりますが、そういう事</p>

発言者	発言内容
<p>議長 (鈴木副会長)</p>	<p>情がございます。今、なぜ改めて強調するのかと言いますと、富津市で大佐和幼稚園の先生になりたくて本学に入ってきた学生が、経済的な事情から、もう難しいと。大佐和幼稚園の先生になるためにずっと頑張ってきたけれども、木更津で3万円借りて、木更津で保育士になります、ということで方向転換をしました。3万円という金額は別にしても、やはりここで、自分の母園で勤めたいと希望があった学生が経済的な事情から方向転換をするという現実を、前回も少しお話をしました。そもそも幼稚園の先生になりたくて入ってきたけれども、保育士に限定されてしまうという問題点と、もう一つは他の市でも、独自の併用型を使ってなるべく自分たちで確保するという時代だとは思いますが。公立、私立に関係なく、奨学金というのは制度としてございますので、その辺もやはり考えないと、幼稚園はどうするのか、また幼稚園の先生になりたい学生が置き去りになってしまう。公立、私立の有利不利ではなくて、保育所、幼稚園でも保育士でも、保育者を目指している若い子たちに、そもそもこういう制度があるということを、中学生ぐらいのときから、自分の将来や夢を思い描けるような取り組みの丁寧な説明が必要ではないのかと考えています。</p> <p>以上です。</p> <p>ご意見として受け取るしかない、また、今日この場でということではできないと思いますが、やはり、こういう議論が必要だと思うので、ぜひ市がリードをとって、様々な専門の方々がいらっしゃいますので、現場の私も含めて意見交換ができて、一緒に考えられるような場を作っていただければ。私からもお願いいたします。</p> <p>他にご意見ある方いらっしゃいますか。</p>

発言者	発言内容
今井委員	<p>それぞれの意見もごもつともと思いますし、それから小野田課長がおっしゃるように、働く環境を整備するというのも一つ大事なことだと思います。要するに、人を確保するために環境を確保したり、給与面を配慮したり、それから新しい人材を発掘する。この三つの視点が必要ですが、その中で私が富津市に不満なのは、例えばICTにしても、千葉県や国の補助金を使うのが、私立は前提になっている。給与についても、施設給付型のもはそちらでやってほしいと。要するに、富津市として、これだけのことを自前ですましますという部分をぜひ前面に出してほしい。そこがないと、やはり今の奨学金についても、木更津市は千葉県の他に市でやっている、富津市だって、そういう可能性がないわけじゃない。そういうのをぜひ探って富津市として、子育てに優しい市を目指すとなれば、それなりの予算を確保していただきたいと思います。</p>
議長 (鈴木副会長)	<p>本当に大事な意見だと思いますが、どうでしょうか。</p>
事務局 (小野田課長)	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>直接的ではありませんが、市独自で私立保育園に上乘せ等しているものもありますが、より姿勢を示す意味で、独自のものを新たに創設することも一つではあるとは思いますが、そこは、予算を要することなので、年々予算の確保が難しくなっている状況ではありますが、継続して制度の拡充を図っていきたくて考えております。</p> <p>時間をいただきたいと思います。</p>

発言者	発言内容
議長 (鈴木副会長)	<p>ありがとうございます。</p> <p>他にご意見ある方いらっしゃいますか。</p>
高林委員	<p>竹岡保育所の高林です。</p> <p>今、宗政委員のお話を聞いて、現場の声として思ったことがあったので、伝えさせていただきたいと思いました。労働条件というところではなく、私達現場としては、やはり働きたいと思ってもらえる職場でなくてはならないというのをすごく実感しました。竹岡保育所に実習で来ていただくのは構わないのですが、どうしても交通手段がないというところで、中々受け入れられなくなってしまっている現状があります。そこがクリアできれば是非という思いはあります。先日、トップセミナーで、公立保育所だから、私立保育園だから、幼稚園だからではなくて、地域の子供のことをみんなで考える時代になってきたという話を聞きました。先程、少しお話がありましたが、みんなでそういうことが話し合える場が必要になってきたのではないかと感じます。</p> <p>人材確保のところでは、小学校、中学校ぐらいのときから保育所や幼稚園が色々子供と交流ができれば保育士や幼稚園教諭を目指す人が増えるかもしれないと思い、保育所としてもそういうのを考えていきたいなと感じました。</p> <p>以上です。</p>
議長 (鈴木副会長)	<p>ありがとうございます。これはご意見ということでよろしいですか。</p> <p>私も発想レベルですが、理事長と話していたのは、中学校の部活動、地域の方に返されていくというような動きもありますよね。そういう意味で、文化系の部活は今もありますけど、福祉系の部活はないと思って。例えば、保育施設に放課</p>

発言者	発言内容
	<p>後行って、そこでボランティアやお手伝いをする部活を作るとか、そういったことも含めて高林委員と同じように、やはり小さい子供たちに触れる機会や地域が極端に減ってしまった。親になって初めて子供を抱くという人たちが増えてきて、抱き方もわからないし、あやし方もわからないしということになってしまおうと思うと、私達はやっぱり仕組みとして市を挙げてそういう機会を作っていく限り、やはり私が冒頭でご挨拶させてもらったように、続く仕組み、保たれていく仕組みというのは生まれにくいような気がするので、ぜひこの機会を生かして、話し合いの機会を作っていただければと私も思っております。</p>
<p>議長 (鈴木副会長)</p>	<p>他にありますか。 特にないようですので、事務局から何かありますか。</p>
<p>事務局 (三木副主査)</p>	<p>令和5年度における会議スケジュールの変更について、ご説明いたします。</p> <p>本日机上に配付いたしました資料3をご覧ください。</p> <p>上段が変更前、下段が変更後の会議スケジュールです。</p> <p>前回会議でお示ししたスケジュールでは、第2回の会議を9月頃、第3回の会議を12月頃開催し、「第Ⅲ期富津市子ども・子育て支援事業計画策定に係るニーズ調査の調査票について」及び「(仮)公立保育所の再配置について」をそれぞれ議題とする予定としていましたが、「第Ⅲ期富津市子ども・子育て支援事業計画策定に係るニーズ調査の調査票について」は、当初、国において、秋ごろを目安に公表される予定であった、こども施策に関する基本的な方針、重要事項等を定める「こども大綱」が、12月頃までに遅れていることから、次回会議を令和6年2月頃に開催し、議題としてご審</p>

発言者	発言内容
<p>議長 (鈴木副会長)</p>	<p>議いただく予定としております。</p> <p>また、「(仮) 公立保育所の再配置について」は、現在、庁内協議を進めているところですが、協議を整えるのに時間を要する状況となっていることから、本会議においてご審議いただく時期につきましては、改めてお示しさせていただきます。</p> <p>以上です。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>他にございますか。</p>
<p>事務局 (石井健康福祉部長)</p>	<p>本日はご多用の中、会議にご出席いただき、また、貴重なご意見をありがとうございました。</p> <p>本会議における委員の皆様につきましては、11月13日をもちまして任期が満了となります。皆様にはこれまで、富津市の子育て施策に関する多くの貴重なご意見をいただきまして誠にありがとうございました。</p> <p>また、次回会議からは新たな委員の方々もお迎えし、お力添えをいただきまして、冒頭、副会長からお話しがありましたが、市民の皆様と一緒により良い子育て環境を整えるために努力してまいります。</p> <p>改めて皆様のこれまでのご尽力に心からの感謝を申し上げます、御礼の言葉とさせていただきます。</p> <p>ありがとうございました。</p>
<p>議長 (鈴木副会長)</p>	<p><次第6 閉会></p> <p>以上をもちまして、令和5年度第2回富津市子ども・子育て会議を閉会といたします。</p> <p>長時間にわたりありがとうございました。</p>